

号外



Design



～地域包括ケア病棟から地域をデザインする～

発行元：地域包括ケア病棟“彩り”・リハビリ科・地域医療連携室

地域包括ケア病棟広報誌Design号外8号です。表面は、第22回住民医療フォーラムのお知らせです。裏面は、老健やましろでの取り組みの紹介です。

(地域医療連携室 室長 南出 弦)

よろしく
お願いします

ケアマネジャーの皆様や訪問看護ステーションの皆様のところへ順次、伺っています。

～ご要望・ご意見をお聞かせ下さい～

日頃は、地域包括ケア病棟“彩り”に患者様をご紹介頂き、ありがとうございます。この場をお借りして御礼申し上げます。

現在、地域のケアマネジャーの皆様のご事業所や訪問看護ステーションの皆様のところへ順次、伺っています。地域包括ケア病棟“彩り”に関する率直なご意見・ご要望をお聞かせ下さい。どのような些細なことでも結構です。頂戴したご意見・ご要望は、院内で対策を検討し、可能な限り改善させて頂きたく存じます。(地域医療連携室 室長 南出 弦)

地域包括ケア病棟“彩り”についてのお問い合わせは…

0774-73-1818 (担当：中野・中嶋) まで

麻疹(はしか)、インフルエンザの面会制限が『解除』になりました。



第22回住民医療フォーラムのご案内

住民医療の新たなステージへ！「地域医療支援病院」資格取得に際して

日時：2019年5月16日(木) 15時30分～17時00分 会場：当院9階会議室

第1部(講演)

資格取得後の当院の現状と今後の展開 中井 一郎(当院 院長)

地域医療支援病院としての京都中部総合医療センターの役割と展望

～地域包括ケアの充実に向けて～

辰巳 哲也 先生(京都中部総合医療センター 院長)

第2部(パネルディスカッション)「未来にはばたけ！住民医療！」

パネラー 山口 泰司 先生(相楽医師会 会長)

三沢 あき子 先生(京都府山城南保健所 所長)

辰巳 哲也 先生(京都中部総合医療センター 院長)

中井 一郎(当院 院長)

予約不要
入場無料です。
是非ご参加下さい。

老健やましろより

～季節を感じ、四季を楽しむ～



私が日本に生まれて良かったと思うことの1つに、「日本には四季がある」ということがあげられます。四季の移り変わりの中で、気温だけでなく風景や身体に感じる風も変わります。施設に入所していると、どうしてもそれらの変化を感じる機会も少なくなってしまうと思います。当施設では、様々な季節の行事やフロアの掲示物、食事・おやつなどを工夫したり、季節の花を飾ったりすることで、入所者様に季節を感じ、四季を楽しんでいただくよう心がけています。

3月3日には、行事食としてひな祭りのちらし寿司を提供しました。また、1階の地域交流スペースには雛人形を飾っており、利用者様も見に来られ、「きれいやなあ。立派なお雛様やなあ。」と笑顔で会話されています。

もうすぐ桜の季節です。春の風ときれいな桜を楽しんでいただけるようお花見を企画中です。(老健やましろ 管理部長 三村 裕子)



地域医療連携室より

～朝から得した気分～



毎朝、NHKの「おはよう日本」を観ています。番組の中に“おはBiz”というコーナーがあり、そのコーナーを観るのがひそかな楽しみとなっています（WEB配信されていますので、朝に観られなかった時は夜にこっそりスマホで観ています）。“おはBiz”では、ビジネスに活かせる国内外の様々なアイデアが紹介されていることが多く、「こんなアイデアがあるのか」と関心する一方、「仕事に活かせないかな」と、頭の中をグルグル回転させながら観ています。

先日は『ブランドはこう売る！』と題して、百貨店の女性化粧品売り場が紹介されていました。これまではブランド毎にブースを設けて商品が売られているのが一般的だと思うのですが、その百貨店では、例えば赤系統の口紅はこちら、というように“ブランドの垣根を越えて”商品が売られているというものです。売り上げは2倍にUPしたそうです。また、別の百貨店では、知識豊富なコンシェルジュが、客の要望に応じて“ブランドの垣根を越えて”トータルコーディネートしている様子が紹介されていました。

この2つの例は、これまでもあっても良かったサービスだと思うのですが、あまりなかったのですね。そして、新たなサービスが売り上げUPにつながったのは、顧客にとって“痒いところに手が届く”サービスだったからではないでしょうか。こんなことを思いながら観ていると、朝から得した気分になります。頭の中をグルグル回転させて、“痒いところに手が届くサービス”を考えたいと思います。(地域医療連携室 室長 南出 弦)